

2023年6月26日

日本ラート協会 会員各位

日本ラート協会
会長 大塚隆
技術部会長 古屋欽司

跳躍採点の手引きの一部改訂について

この度、跳躍採点の手引きの改訂を行い、『跳躍採点の手引き 2023』を作成いたしましたので、ご報告いたします。主に、以前より指摘されていた記載誤りや『ラート競技採点規則 2020』での改訂内容が反映できていない箇所の修正を以下の通り行いました。

『跳躍採点の手引き』は技ごとの減点箇所を演技の実施の流れに沿った形で記載がされているものであり、選手や審判が跳躍の競技規則の理解を深めるためにとても有用なものとなっております。今回の修正を機に、ぜひともご活用いただけますと幸いです。

なお、今回の修正においては記載誤りの修正、表現の統一、最新の採点規則の反映を実施しただけですので、競技規則そのものの変更（減点などのルールの変更）はありません。

記

<跳躍採点の手引きの修正箇所>

No.	修正内容	詳細	該当箇所（新規則のページ）
1	肘角度<135°に関する減点の誤記修正	・第2局面：肘角度<135° (修正前) 小減点 0.1~0.2 点 (修正後) 固定減点 0.2	p.7 A2 開脚座り跳び・後方下り跳び p.9 A3 閉脚かかえこみ跳び
2	ラートに肘をついた場合の減点の誤記修正	・第2局面：ラートに肘をつく (修正前) 固定減点 0.5 点 (修正後) 固定減点 0.8 点	p.7 A2 開脚座り跳び・後方下り跳び p.9 A3 閉脚かかえこみ跳び
3	閉脚かかえこみ跳びの跳び上がりの高さ不足に対する減点の記載漏れ修正	閉脚かかえこみ跳びの跳び上がりの高さの不足に対する可変減点 0.1-0.5 点が記載されていなかったため、記載を追加。	p.9 A3 閉脚かかえこみ跳び
4	転回跳びで肩がラートのリングより低い場合の減点について、第2局面と、第3局面双方で減点されるような記載になっているため、双方合わせて 1	(修正前) 固定減点 0.8 点が第2局面と第3局面に記載されており、第2局面と第3局面の双方で減点されうると受け取れる記載になっている。 (修正後) 以下の注釈を追加。 ---	P.51,52 D1 転回跳び P.54,55 D2 開脚転回跳び P.56,57 D3 開脚支持転回跳び P.58,59 D4 伏臥支持・転回跳び P.60,61 D5 伏臥支持・転回跳び・前方宙返り

	回のみであるという注釈を追加	注:この固定減点 0.8 は第 2 局面と第 3 局面あわせて 1 回のみ。	P.62,63 D6 伏臥支持・転回跳び 1/2 ひねりからの後方宙返り
5	倒立開脚下り、転回跳びで肩がラートのリングより低い場合の表記ゆれ解消	同一の減点に対して、以下の 3 パターンで記載されており、表記ゆれがあったため、記載を統一。 (修正前) ①肩がラートのリングより低い(体重をリングにかける) ②肩が下がっている、もしくはリングで支えている ③リングより下に肩が下がっている(もしくはラート上に乗っている) (修正後) リングより下に肩が下がっている(もしくはラート上に乗っている)	P.11 A4 倒立開脚下り P.51,52 D1 転回跳び P.54,55 D2 開脚転回跳び P.56,57 D3 開脚支持転回跳び P.58,59 D4 伏臥支持・転回跳び P.60,61 D5 伏臥支持・転回跳び・前方宙返り P.62,63 D6 伏臥支持・転回跳び 1/2 ひねりからの後方宙返り
6	転回跳びの倒立姿勢の欠如についての表記ゆれ解消	同一の減点に対して、以下の 3 パターンで記載されており、表記ゆれがあったため、記載を統一。 (修正前) ①倒立姿勢の欠如 ②倒立姿勢が明確でない ③明確な倒立姿勢を経過していない (修正後) 明確な倒立姿勢を経過していない	P.52 D1 転回跳び P.55 D2 開脚転回跳び P.57 D3 開脚支持転回跳び P.59 D4 伏臥支持・転回跳び P.61 D5 伏臥支持・転回跳び・前方宙返り P.63 D6 伏臥支持・転回跳び 1/2 ひねりからの後方宙返り
7	ラート採点規則 2020 におけるひねり角度に対するルール改訂を反映	ラート採点規則 2020 におけるひねり角度に対するルール改訂を反映。 (修正前) 90° までのひねり不足について難度を認定。 (修正後) 30° までのひねり不足について難度を認定。	p.1 ひねりが不足した場合の難度の認定について

以上